

まちづくりフォーラム2016実施報告

今年度は、「人口減少問題」をテーマに、総合福祉保健センター6階大会議室にて平成28年2月7日（日）に開催いたしました。

当日は、高校生や大学生、市内団体や事業者並びに一般公募の方など関係者を含め62名ご参加いただき、相模女子大学教授の松下啓一さんによる基調講演、参加者によるグループディスカッションを行いました。

1 基調講演 相模女子大学 人間社会学部 教授 松下 啓一さん



・基調講演は、「人口減少における現状と課題」について、先進的に取り組まれている自治体の紹介や具体的に他市との人口を比較するなど、わかりやすく説明していただきました。主な内容は次のとおりです。

- ・人口減少の理由として、晩婚化や未婚率の上昇による少子化が挙げられる。
- ・人口減少は、労働力人口の減少や税収の減少、経済の衰退など深刻な影響を及ぼすため、国を挙げて人口減少対策・地方創生に取り組んでいるところである。
- ・人口が増加している自治体を調べると、東京や名古屋など都会へ繋がる鉄道があること、そして、その周りに住宅などが建てられ、企業が進出できる広大な土地があることが共通事項として挙げられる。
- ・鎌ヶ谷市は、市域内に鉄道が4線も通っており、鉄道の利便性において大変恵まれているため、将来性がある。
- ・結婚・出産・子育てのアンケート結果からわかるように、一番行政に期待していることは、子育てしやすい社会環境づくりのため、今後、重点化を図っていく必要がある。
- ・どの年代層を呼び込むのかターゲット化した視点も必要である。
- ・職員が自由にアイデアを出し合える職場風土も大切である。
- ・若者が活躍するまち、若者が住みたくなるまちにするため、若者議会を設置し、若者に予算提出権を与え、若者ならではの視点による取組みについて予算化している市もある。
- ・まちづくりは、行政や議会だけが担うものではなく、市民・事業者・行政がともに、それぞれの強みを生かして、協働で取り組まなければ成し遂げられないため、市民が積極的にまちづくりに参画できるような仕組みが重要である。

2 グループディスカッション（ワールド・カフェ方式にて）

- ・後半は、高校生や大学生、市内団体や事業者の皆さんによるグループディスカッションを行い、「人口減少問題」について意見交換を行いました。
- ・ディスカッションについては、昨年引き続き、「ワールド・カフェ方式」で実施しました。3つの問いについて、問いごとに、メンバーをシャッフルすることで、他の人々の様々な意見にも耳を傾ける機会を増やし、議論を活発にする方法です。



- ・テーブルごとのご意見を紹介します。

【テーブル①】

- ・梨農園には堆肥置場があるが、この中にカブトムシ虫の幼虫が多数生息しており、梨とセットでPRできないだろうか。
- ・交通渋滞は、まちのイメージをダウンさせる大きな要因であるので、北千葉道路の整備を早期に進めるべきではないのか。
- ・市内の道路は、幅が狭く、歩道も段差が多く見受けられる、このような点を改善することもまちのイメージアップにつながる。
- ・高架鉄道が多いので、その地上部を有効活用してみてはどうか。例えば、駅近くであれば、保育園等の立地が有効と思われる。
- ・婚活に伴う出会いの場が必要である。市が主催者となれば、信用度も高い。
- ・市内の就労の場所が少ない。若者が市外に転出しないようにするためにも就労の場の確保が必要ではないか。
- ・地域の自治会が開催する各種イベント等へ、若者の参加を促す仕組みをつくる必要がある。
- ・野球のできるような公園、また、バスケットコートがあればよいと思う。

【テーブル②】

- ・新たなものを作って人を呼ぶ敷地が鎌ヶ谷にはないので、身近な環境を利用して何かやればよい。(梨、日ハム、大仏等)
- ・鎌ヶ谷は梨が有名なので、梨畑で婚活パーティーをすとか、剪定や受粉をお手伝いする方等広く公募して、梨の大切さを理解してもらうなど、梨を活用したイベントを行う。
- ・市の中心を走る高架下を利用して名所を作る。(名店街や全国の名産物を揃えたアンテナショップなど)
- ・市の既存イベントについて、高校生、大学生が参加しやすい仕組みをつくる。
- ・地域のお店と高校が連携し、文化祭などでイベントを行う。
- ・婚活パーティーなどのイベントをSNSを利用して若年層に発信する。
- ・新鎌ヶ谷駅を降りて周りを見回すと高層ビルは少なく、自然も感じられ落ち着いた感じでいい雰囲気である。駅前でもこの自然を感じられることをもっとPRするとよい。
- ・農家と商業関係者がもっと繋がるような仕掛けを考え、市内全域に広げていけたらよい。(同業種同志の集まりは偏る傾向があるため)
- ・梨農家で最近行っているカブトムシの配布をもっとPRするとよい。
- ・スタンプラリーを一日で終わるようなものではなく、その日に来ないと貰えないトラップ(仕掛け)を用意し、何日も鎌ヶ谷に足を運んでもらうようなものにして、鎌ヶ谷を知ってもらう。
- ・低家賃の新婚家庭用の市営住宅を作り、子供が増えるごとに家賃が更に安くなるようなことができると若者が集まってくれるのではないかな。
- ・コミュニティバスの本数を増やし、市内にある駅へのアクセスが容易であることをPRし(SNSを利用)、若者に発信することでその年代を呼び込むことができるのではないかな。(今の若者は車を持たないので)

【テーブル③】

- ・子ども、障がい者、自転車がスムーズに通過できる道路の改修が必要である。
- ・若い夫婦が住んでもらう施策として、住宅の提供が重要である。家賃援助もその一つで、子どもが多いほどに、助成額を増やすなどの施策が必要と考える。
- ・子育て世代に対し、現金を支給するのではなく、保育料やその他出費を減らす施策が必要である。
- ・市民まつりは、若者の意見を採用し、相馬の馬を誘致し、大きな成果をあげている。
- ・子育て支援にあたっては、行政、民間、団体が連携協力して展開する必要がある。
- ・鎌ヶ谷高校は、吹奏楽部やカルタ部など魅力があったので、市外から入学した。鎌ヶ谷市でも、特色ある部分をしっかりとアピールして定住促進、人口を増やす施策に繋げて欲しい。
- ・若者世代として、SNSを活用してPRを展開してほしい。若者には、市の情報が行き届いていないと感じる。例えば、大学と連携、16歳以上を対象にしたイベントなどを実施し、その中でボランティア情報なども含めて発信してほしい。
- ・梨の収穫の際には、近隣の小中学校からのボランティアをお願いしている。このような事業をさらに若者に展開できるようなことを考えて欲しい。
- ・子ども医療費の助成など、子育て世代にやさしい街づくりを展開していると感じている。

【テーブル④】

- ・鎌ケ谷は鉄道の便がいいのでそれを利用する。道路が狭いので、広い道路に整備すれば生活しやすくなる。
- ・子育て世代を呼び込むために、子育て施設や子育て世代への補助などの充実が必要である。
- ・市内に鉄道駅はあるが、それぞれの駅に魅力がないので、魅力を持たせるようにしたらよいのではないかと。市内の駅では、新鎌ケ谷駅だけ発展している。
- ・市にあるものを活かして市外へ発信して、注目してもらおう。例えば、鎌ケ谷大仏にしても、場所がわかりづらいので、わかりやすく紹介するなどしたらよいのではないかと。
- ・SNSやサイトなどを発展させればよいのではないかと。市のホームページは見づらいので、まずはその辺から変えていってはどうか。
- ・市のメリットを鎌ケ谷全体で発揮できるようにする。鎌ケ谷に来れば市の魅力を含めた、いろんな情報が得られるようにすれば、人々の集まるまちにつながるのではないかと。
- ・世代ごとのニーズに、どのように応えるのかも大事だと思う。
- ・婚活を企画してカップルとなれば、それが縁で鎌ケ谷に住むかもしれない、鎌ケ谷の梨を取り上げ梨狩り婚活なんてどうか。
- ・特産の梨を使った名産品を考える。
- ・外国からの来訪者に向けたイベントの実施。
- ・まずは、鎌ケ谷を覚えてもらうこと、そのための素材を見つけ活かせば先につながるのではないかと。

【テーブル⑤】

- ・「人口増」と併せて「集客」も考える。
- ・駅前広場の整備（電車を降りてみたい駅・まちと思わせるような魅力を感じる駅前広場）をすることが集客につながる。
- ・新鎌ケ谷駅に初めて降りて、周辺を散策してみたが、高いビルが密集している都市の駅と違って、空が見えて、自然を感じることができて、きれいな街並みだと思った。
- ・新鎌ケ谷だけでなく鎌ケ谷市全体の魅力を凝縮してPRする。併せて近隣市の魅力もPRし、鎌ケ谷市を含むエリアに足を向かせる。
- ・最初に転入した人たちの子どもたちが、学校や仕事などで市外に出ていく。
- ・子どもたちの代も、引き続き鎌ケ谷に住み続けることができるまちづくりが必要である。
- ・働く場所を作る。（以前はセイコー社やユニオン製靴などもあったが、今は通りの名前でしか残っていない。）
- ・起業しやすいまちにする。

【テーブル⑥】

- ・公共料金を下げ他市との差別化を図り、生活費が安く抑えられることをアピールする。
- ・市内全域のインフラ整備を推進し、人口増を図る。
- ・子育て世代に配慮し、保育園や学校を整備する。
- ・『関東一、自転車で走りやすい街』を目指し、低酸素社会に貢献する市をアピールする。自転車走行用の専用スペースを設ける。
- ・『傘のいない新鎌駅周り』、新鎌ヶ谷駅を中心とした各施設（イオン・アクロスモール・市役所・新鎌ヶ谷病院等）間の歩道に屋根を設置し、各施設間の利便性を上げると共に、街に一体感を持たせ新鎌駅周りのイメージアップを図る。
- ・買い物弱者にやさしい街として、移動販売を推奨し市がその活動に補助金を支出する。
- ・ききょう号の利便性を上げ（本数を増やし、停留所に拘らず自由に乗り降りできる等）、利用者数を増やし知名度を上げる。
- ・今ある施設や物を活用し、市や民間を問わずに連携を図り、新しい取り組みを推進していく。（学校と農家が連携し、新たな教育事業を推進する等）
- ・年配者が気軽に集まる事が出来る憩いの場を設ける。（ベンチなどの設置）

【テーブル⑦】

- ・安心して出産ができるよう、市内に出産できる産婦人科が1か所しかない現状を解消することが、人口増への一歩ではないか。
- ・親子で安心して歩ける歩道整備や、渋滞解消に繋がる道路整備を進めることが必要と考える。
- ・子どもたちのニーズに合った多様性の遊び場も考えてはどうか。
- ・みんなが防犯に取り組んで、治安のいいまちづくりを心掛けることが必要である。そうすることで、市民の絆はより強まって、認知症も地域が支えるなど、どんどんよいまちになると思う。
- ・古くからある自治会だけではなく、新住民の地区にも、住民同士がコミュニケーションを図れる場所があってもいいのではないか。
- ・鎌ヶ谷は、楽しく、便利で、にぎわいがあることを情報発信していくことが重要である。
- ・鎌ヶ谷高校では、一部の部活で自治会や商工振興会と活動をしているが、より多くの生徒が積極的に参加できるイベントの開催があるとよい。
- ・「日本一安全な街、鎌ヶ谷」を目指して、市民参加を促していきたい。
- ・子どもの安全を、地域ぐるみで3世代が見守っていくようにすることで、より強い絆が生まれ、住みやすい地域環境になると思うので、その一人として役に立てればと考えている。

【テーブル⑧】

- ・市はPRが下手。日ハムの球場でイベントを行うなど地域資源を活用する。
- ・鎌ケ谷市は子育てに関するサービスが手厚いと思うが、認知度が足りない。もっとPRすべき。
- ・学童保育は午後5時までだが7時くらいまで延長したらどうか。
- ・観光について、来訪者等がSNSでPRしたくなるような特徴が必要。梨は鎌ケ谷のブランドイメージが強いので、梨園で婚活イベントをするなど、梨と何かをコラボしたイベントで盛り上げ、PRできればよい。
- ・大学を誘致し、その大学に通う市民には学費を援助する。若者が来るように返済不要の奨学金を出す。
- ・教育費は無償でいいと思う。市に貢献したら無料にする。例えば、市内で数少ない小児科や産婦人科などを開院することを条件に、学費を援助するなど。
- ・子育てに関するサービスや施設の活用方法など、やり方はいろいろあることを必要な人に知らせたい。自分のできることを広げていきたい。
- ・バスケットコートを作ってほしい（若者が集まる）
- ・市では、夕方に帰宅を促す放送を流すなど、子どもの安全に気を付けていて、子育てに良いまちだと思う。また、子どもの医療費が300円で優遇されている。
- ・屋上解放は土日もやってほしい。
- ・AEDマップを作っているが、公共施設がほとんどなので夜間は使用できない。他市ではコンビニにも置いている。

3 全体コメント 相模女子大学 人間社会学部 教授 松下 啓一さん

- ・グループディスカッション終了後、基調講演講師の松下さんより全体へのコメントをいただきました。主な内容は以下のとおりです。

- ・このようなグループディスカッションの場において、高校生や大学生などの若者から経験豊富な年配の方まで、皆が一緒に考えることにより、新たな発見、気づきが生まれるということは非常に良いことである。
- ・重要なキーワードとして、地域資源の「発見」が挙げられる、梨をもっとPRすべきとの意見もあったが、市にデメリットな部分であっても、それを解決すれば、地域資源となりうる可能性があるため、発想の転換も大事である。
- ・このような発想の転換は、少人数で考えても視野が狭くなってしまうため、難しい。より多くの人から意見を聞くことで、新たな視点、発想が生まれる。
- ・魅力があってもそれを効率よく受け手に伝える「発信」がとても重要である。近年、効果的な情報発信手段の1つとして、SNSなどが挙げられるが、一番効果的なのは、口コミである。約11万人の鎌ケ谷市民や鎌ケ谷市に在勤・在学している人が、一丸となって鎌ケ谷市の良さを口コミで広めれば、すごい発信力になる。そのため、皆で鎌ケ谷市の魅力を、周りに伝えていく取組みが必要である。
- ・これからの時代を担っていく若者の視点は、非常に重要であるため、市は、若者が積極的に行政の取組みに参画できる仕組みをもっと増やしていくことが大事である。
- ・このような機会に市民がもっと積極的に参画してアイデアを出し、より魅力的な鎌ケ谷市を作り上げていただきたい。

4 アンケート結果

・まちづくりフォーラムに対する満足度について、当日来場の方にアンケートを行った結果は以下のとおりです。

項目	回答数	割合 (%)
1 大変よい	22	47.8
2 よい	23	50.0
3 悪い	0	0
4 大変悪い	0	0
5 未回答	1	0.2
合計	46	100.0

担当 企画財政課企画政策室 内線343